

イスラエル オットリマンダリンの輸出は30%減でスタート

FreshPlaza 2024年1月11日

2024年のイスラエル産オットリマンダリンの輸出シーズンは、主に労働者の不足、物流の制限、一部の施設の休業等、戦争に関連してイスラエル農業が置かれた一般的な状況の影響を受けている。プラネットイスラエル社の輸出部長であるベツァレル・オハナ氏は、これらの要因により、全体的な出荷量はわずかに少ないと述べている。(以下「」は同氏の発言)

「2023年と比較すると、イスラエルのオットリマンダリンの出荷量は約5~10%少ない。これは主に開花期の着果量の減少によるもので、平均よりも高い冬の気温、湿度の変動、労働力不足などの要因が複合的に影響した可能性が高い。しかし、パンデミック前の2017年から2019年までの平均と比較すると、出荷量は依然として安定した傾向を維持している。そのような中、輸出量が約30%少ない状態で輸出シーズンが始まっている。」

栽培への天候の影響は少しあったものの、輸出シーズンに影響を与えるような異常気象は発生していないと同氏は説明する。「例年より暖かい冬が生産にいくらか影響を及ぼし、着果量の減少につながった可能性がある。しかし、全体的に生育期間は比較的良好で、十分な降雨量と日照量に恵まれた。これまで雹や霜などの厳しい気象現象がなかったことは、損失を最小限に抑え、果実の品質を良好に維持する上で助けとなった。」

オハナ氏は今シーズンのオットリマンダリンのサイズに満足している。「今年の果実のサイズは概ね予想の範囲内で、例年と比べて大きな違いはない。生産者は、果実のサイズを最適化し、オットリマンダリンを有名にしている高い規格を維持するために、細心の注意を払った作物管理を行っている。最近の主なサイズは、西ヨーロッパで需要が高い1XX、1X、1及び2の中玉である。カナダとアメリカでは、もっと大きなサイズの1XXX、1XX及び1Xが好まれる。」

オハナ氏によると、オットリマンダリンの需要は良好な水準にある。「ヨーロッパにおける当社の主要市場は、フランス、イタリア、オランダである。ヨーロッパの一部の市場、特にスカンジナビアと英国では、果実のユニークな品質に対する消費者の認知度と評価が高まっているためか、関心が高まっている。しかし、以前は主要な輸入国であった一部のアジア市場では、物流上の課題や経済的要因により、わずかに減少している。」

プラネットイスラエル社は主に西に位置する国の市場を対象としているため、輸出業者にとって、紅海の状況はオットリマンダリンの輸出シーズンには影響しないとオハナ氏は説明する。「コンテナ不足や輸送コストの上昇など、世界的な物流上の課題は、輸出シーズンに引き続き影響を与えている。これらの課題にもかかわらず、イスラエルの輸出業者らは、代替策を見つけ、オットリマンダリンの国際市場への効率的な輸送を維持するために熱心に取り組んでいる。弊社の主な市場は西ヨーロッパと北米であるため、航路はイスラエルの港から直接西向きに進むため、アラブ湾岸の状況には影響されない。」

「輸出の最盛期が近づく中、オットリマンダリンの出荷量は今後数週間、着実に増加すると予想される。自国通貨(NIS: 新イスラエルシェケル)がユーロや米ドルといった外貨に比べて弱いことが、取引量の減少を埋め合わせるのに役立っている。果実の品質は引き続き素晴らしく、世界中の消費者に満足のいく食体験を提供し、価格は安定するだろうと予想される。」

執筆者: ニック・ピーターズ